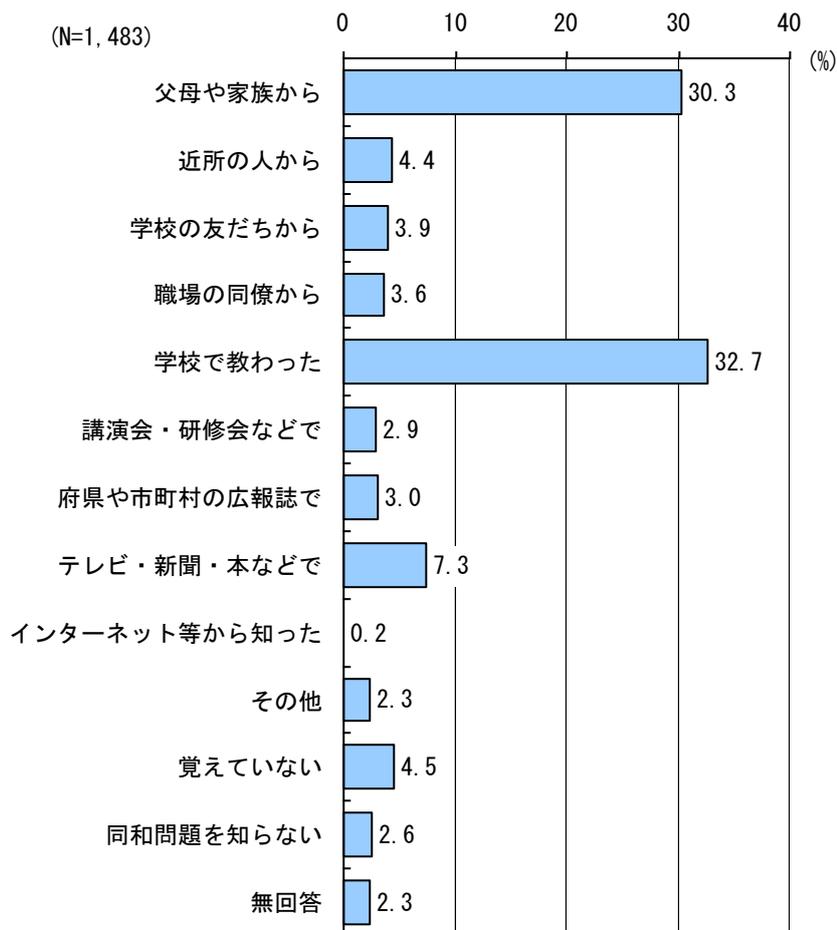


2 同和問題について

(1) 同和問題や被差別部落を知った経緯

問4 あなたが同和問題や被差別部落（同和地区）があることを、どのようにして知りましたか。（あてはまる番号1つに○）

【図 2-1 同和問題や被差別部落を知った経緯】



同和問題や被差別部落を知った経緯については、「学校で教わった」（32.7%）と「父母や家族から」（30.3%）がともに3割台と高くなっている。（図 2-1）

【表 2-1-1 年代別 同和問題や被差別部落を知った経緯】

(上段：回答者数/下段：回答比率) (%)

	調査数	父母や家族から	近所の人から	学校の友だちから	職場の同僚から	学校で教わった	講演会・研修会などで	府県や市町村の広報誌で	テレビ・新聞・本などで	インターネット等から知った	その他	覚えていない	同和問題を知らない	無回答
20歳未満	50 100.0	11 22.0	- -	2 4.0	1 2.0	20 40.0	- -	- -	5 10.0	- -	- -	1 2.0	9 18.0	1 2.0
20歳代	130 100.0	36 27.7	- -	4 3.1	- -	68 52.3	- -	- -	6 4.6	1 0.8	- -	4 3.1	11 8.5	- -
30歳代	242 100.0	65 26.9	2 0.8	6 2.5	6 2.5	134 55.4	4 1.7	- -	6 2.5	1 0.4	3 1.2	6 2.5	6 2.5	3 1.2
40歳代	229 100.0	52 22.7	2 0.9	6 2.6	4 1.7	135 59.0	4 1.7	3 1.3	8 3.5	- -	2 0.9	7 3.1	- -	6 2.6
50歳代	228 100.0	70 30.7	3 1.3	13 5.7	5 2.2	78 34.2	9 3.9	7 3.1	16 7.0	1 0.4	10 4.4	11 4.8	2 0.9	3 1.3
60歳代	336 100.0	134 39.9	31 9.2	19 5.7	20 6.0	34 10.1	12 3.6	16 4.8	32 9.5	- -	8 2.4	20 6.0	4 1.2	6 1.8
70歳以上	237 100.0	75 31.6	25 10.5	5 2.1	14 5.9	14 5.9	12 5.1	18 7.6	31 13.1	- -	11 4.6	15 6.3	5 2.1	12 5.1

同和問題や被差別部落を知った経緯を年代別でみると、50歳代以下の年代は「学校で教わった」が、60歳以上の年代では「父母や家族から」が最も高くなっている。

また、20歳未満では、「同和問題を知らない」(18.0%)が他の年代と比べ割合が高くなっている。(表 2-1-1)

【表 2-1-2 区別 同和問題や被差別部落を知った経緯】

(上段：回答者数/下段：回答比率) (%)

	調査数	父母や家族から	近所の人から	学校の友だちから	職場の同僚から	学校で教わった	講演会・研修会などで	府県や市町村の広報誌で	テレビ・新聞・本などで	インターネット等から知った	その他	覚えていない	同和問題を知らない	無回答
堺区	257 100.0	72 28.0	12 4.7	5 1.9	4 1.6	102 39.7	5 1.9	7 2.7	18 7.0	2 0.8	6 2.3	9 3.5	7 2.7	8 3.1
中区	204 100.0	49 24.0	10 4.9	8 3.9	10 4.9	75 36.8	5 2.5	6 2.9	19 9.3	- -	4 2.0	12 5.9	3 1.5	3 1.5
東区	163 100.0	44 27.0	3 1.8	7 4.3	7 4.3	53 32.5	4 2.5	7 4.3	11 6.7	- -	1 0.6	15 9.2	5 3.1	6 3.7
西区	236 100.0	81 34.3	12 5.1	11 4.7	13 5.5	63 26.7	8 3.4	8 3.4	11 4.7	1 0.4	3 1.3	11 4.7	10 4.2	4 1.7
南区	283 100.0	86 30.4	13 4.6	15 5.3	8 2.8	83 29.3	12 4.2	9 3.2	23 8.1	- -	8 2.8	12 4.2	6 2.1	8 2.8
北区	277 100.0	96 34.7	11 4.0	10 3.6	9 3.2	89 32.1	7 2.5	7 2.5	19 6.9	- -	9 3.2	7 2.5	8 2.9	5 1.8
美原区	63 100.0	21 33.3	4 6.3	2 3.2	2 3.2	20 31.7	2 3.2	1 1.6	7 11.1	- -	3 4.8	1 1.6	- -	- -

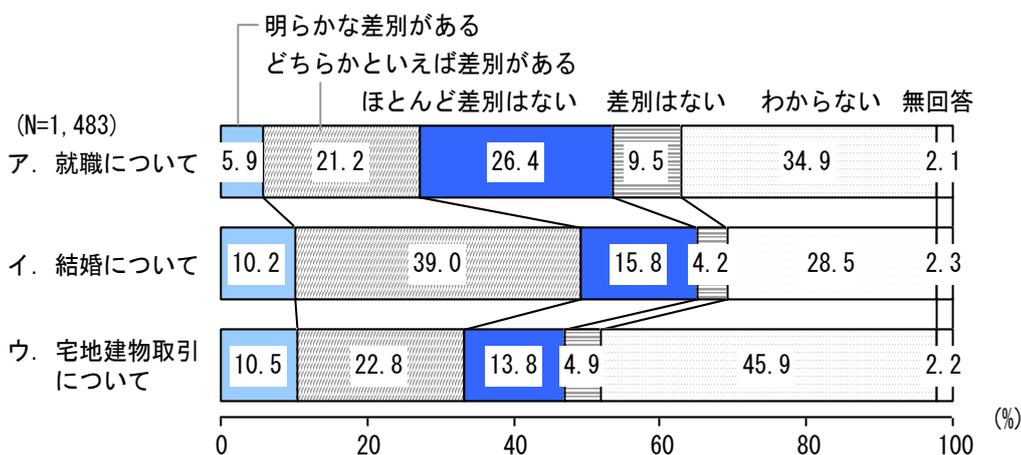
同和問題や被差別部落を知った経緯を区別でみると、堺区(39.7%)、中区(36.8%)、東区(32.5%)では「学校で教わった」が、西区(34.3%)、南区(30.4%)、北区(34.7%)、美原区(33.3%)では「父母の家族から」が最も高くなっている。(表 2-1-2)

(2) 就職や結婚、宅地建物取引時の部落差別について

問5 現在、次のことについて部落差別があると思いますか。

(ア～ウのそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

【図 2-2 就職や結婚、宅地建物取引時の部落差別について】

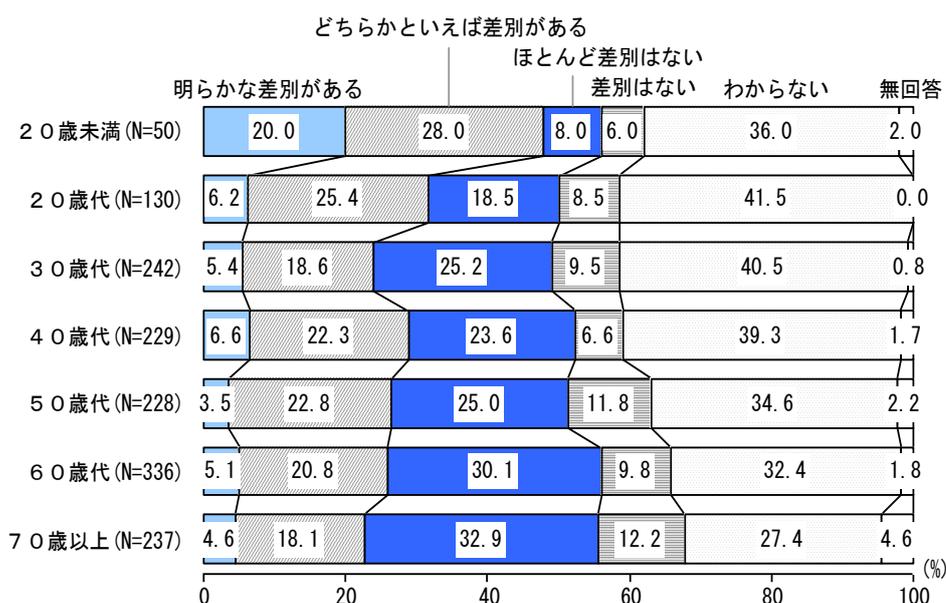


就職や結婚、宅地建物取引時の部落差別について、「ア. 就職について」では、“差別はない”（「ほとんど差別はない」と「差別はない」を合わせた数）（35.9%）が“差別がある”（「明らかな差別がある」と「どちらかといえば差別がある」を合わせた数）（27.1%）と比べ8.8ポイント高くなっている。

「イ. 結婚について」では、「差別がある」（49.2%）が“差別はない”（20.0%）と比べ29.2ポイント高くなっている。

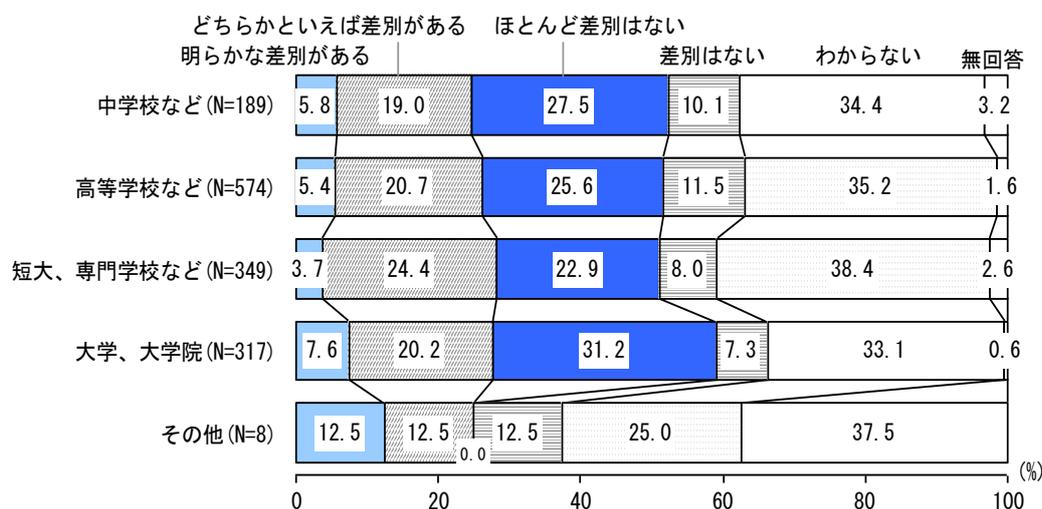
「ウ. 宅地建物取引について」では、「わからない」（45.9%）が最も高く、“差別がある”（33.3%）が“差別はない”（18.7%）と比べ14.6ポイント高くなっている。（図 2-2）

【図 2-2-1 年代別 ア. 就職についての部落差別】



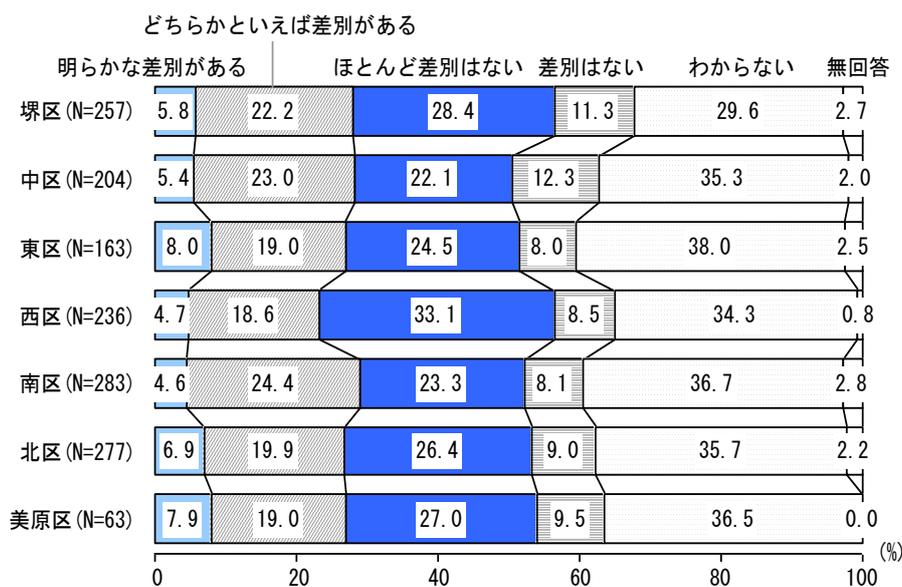
「ア. 就職についての部落差別」を年代別でみると、20歳代以下の年代では“差別がある”が“差別はない”に比べ割合が高くなっており、特に20歳未満では48.0%と高くなっている。また、30歳代以上の年代では“差別はない”が“差別がある”に比べ割合が高くなっており、70歳以上では45.1%と高くなっている。（図 2-2-1）

【図 2-2-2 最終学歴別 ア. 就職についての部落差別】



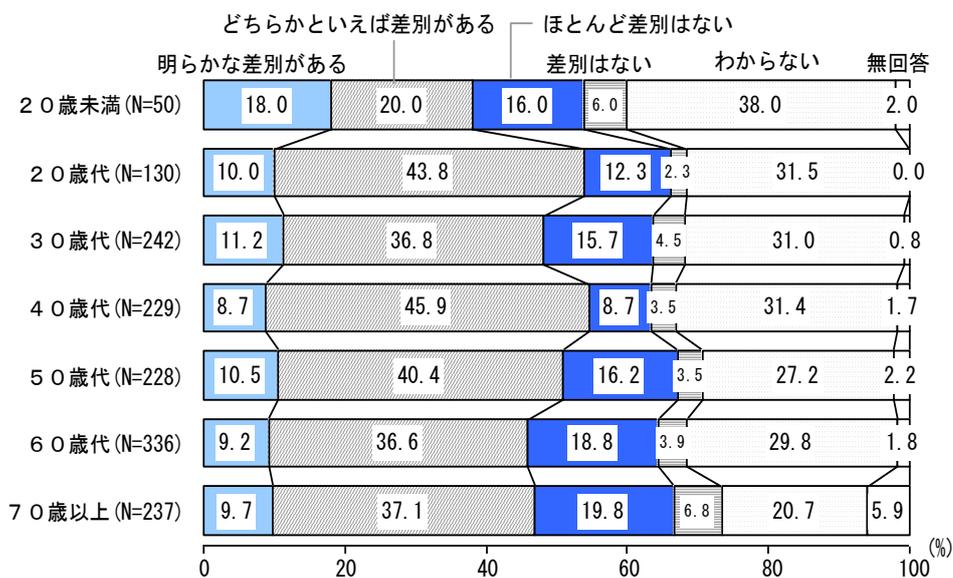
「ア. 就職についての部落差別」を最終学歴別でみると、各学歴で“差別はない”が“差別がある”に比べ割合が高くなっているが、短大、専門学校などの“差別はない”（30.9%）の割合が他の学歴と比べ割合が低くなっている。（図 2-2-2）

【図 2-2-3 区別 ア. 就職についての部落差別】



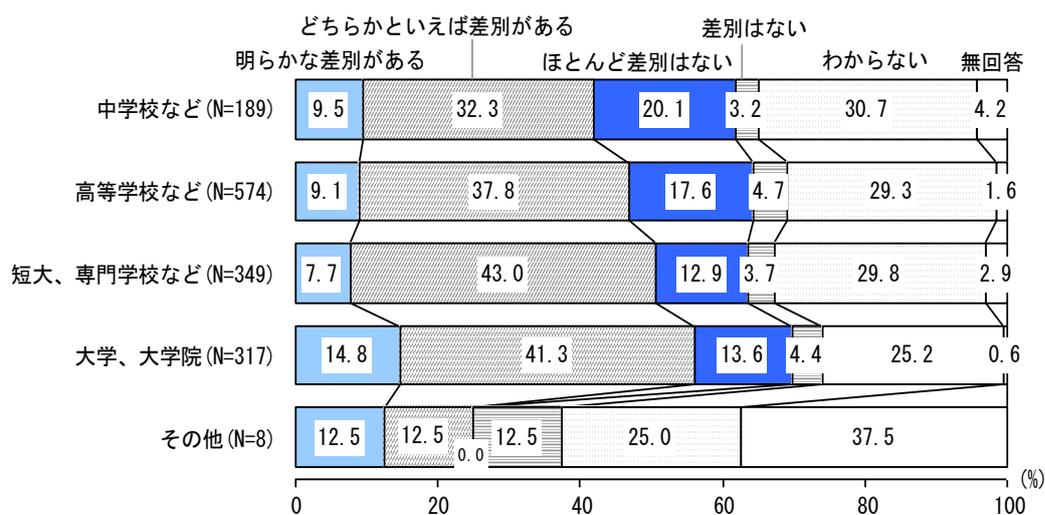
「ア. 就職についての部落差別」を区別で見ると、各区で“差別はない”が“差別がある”に比べ割合が高くなっており、特に西区では41.6%と高い。(図 2-2-3)

【図 2-2-4 年代別 イ. 結婚についての部落差別】



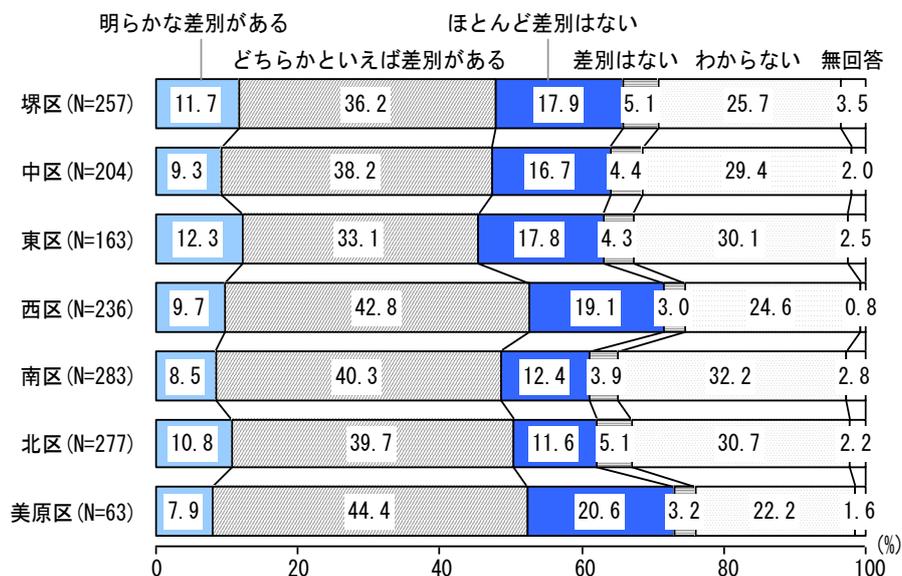
「イ. 結婚についての部落差別」を年代別で見ると、各年代で“差別がある”が“差別はない”に比べ割合が高くなっており、20歳代～50歳代では5割前後を占めているが、20歳未満では“差別がある” (38.0%) の割合が他の年代と比べ割合が低くなっている。(図 2-2-4)

【図 2-2-5 最終学歴別 イ. 結婚についての部落差別】



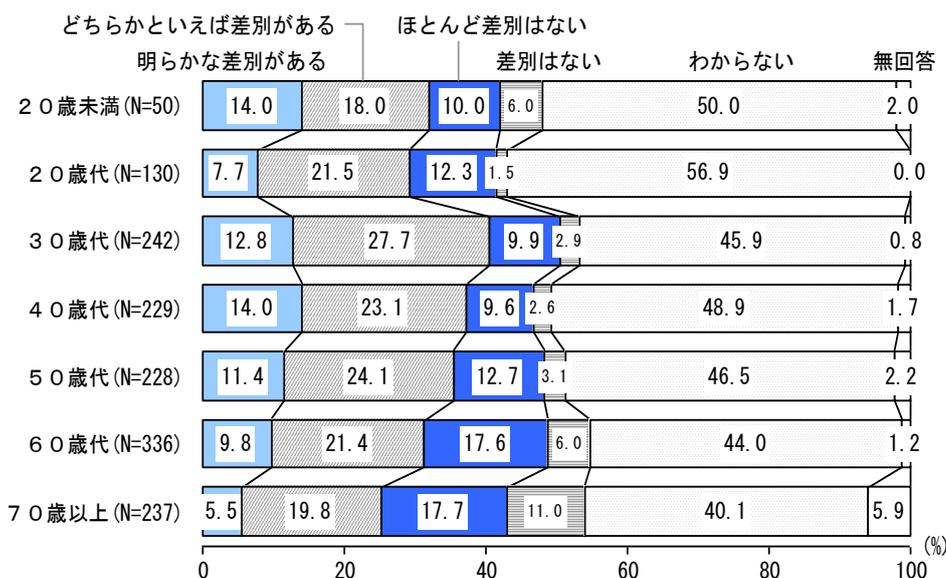
「イ. 結婚についての部落差別」を最終学歴別でみると、各学歴で“差別がある”が“差別はない”に比べ割合が高くなっており、高学歴になるにつれて割合が上昇している。特に短大、専門学校などは50.7%、大学、大学院は56.1%と高くなっている。（図 2-2-5）

【図 2-2-6 区別 イ. 結婚についての部落差別】



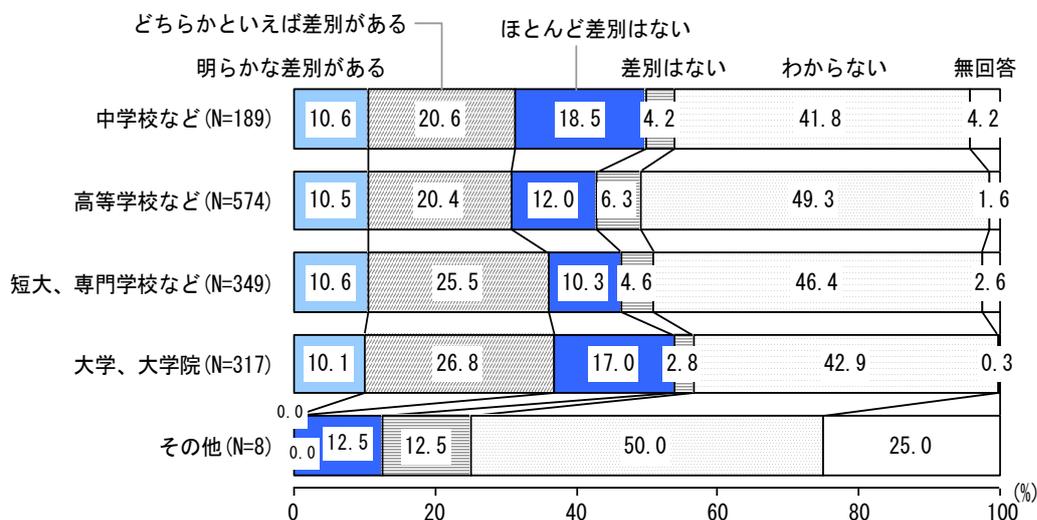
「イ. 結婚についての部落差別」を区別でみると、各区で“差別がある”が“差別はない”に比べ割合が高くなっており、4割以上を占めている。特に西区は52.5%、美原区は52.3%、北区は50.5%と高くなっている。（図 2-2-6）

【図 2-2-7 年代別 ウ. 宅地建物取引についての部落差別】



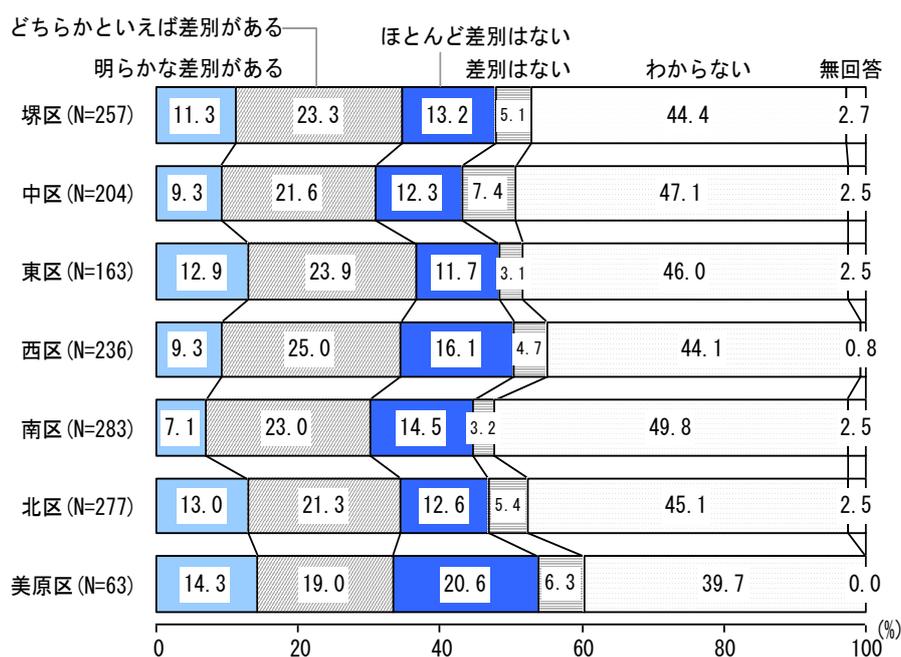
「ウ. 宅地建物取引についての部落差別」を年代別で見ると、各年代で「わからない」が最も高くなっているが、60歳代以下の年代では“差別がある”が“差別はない”に比べ割合が高く、逆に70歳以上では“差別はない”が“差別がある”に比べ割合が高くなっている。(図 2-2-7)

【図 2-2-8 最終学歴別 ウ. 宅地建物取引についての部落差別】



「ウ. 宅地建物取引についての部落差別」を最終学歴別で見ると、各学歴で「わからない」が最も高くなっているが、“差別がある”が“差別はない”に比べ割合が高く、3割台を占めている。(図 2-2-8)

【図 2-2-9 区別 ウ. 宅地建物取引についての部落差別】

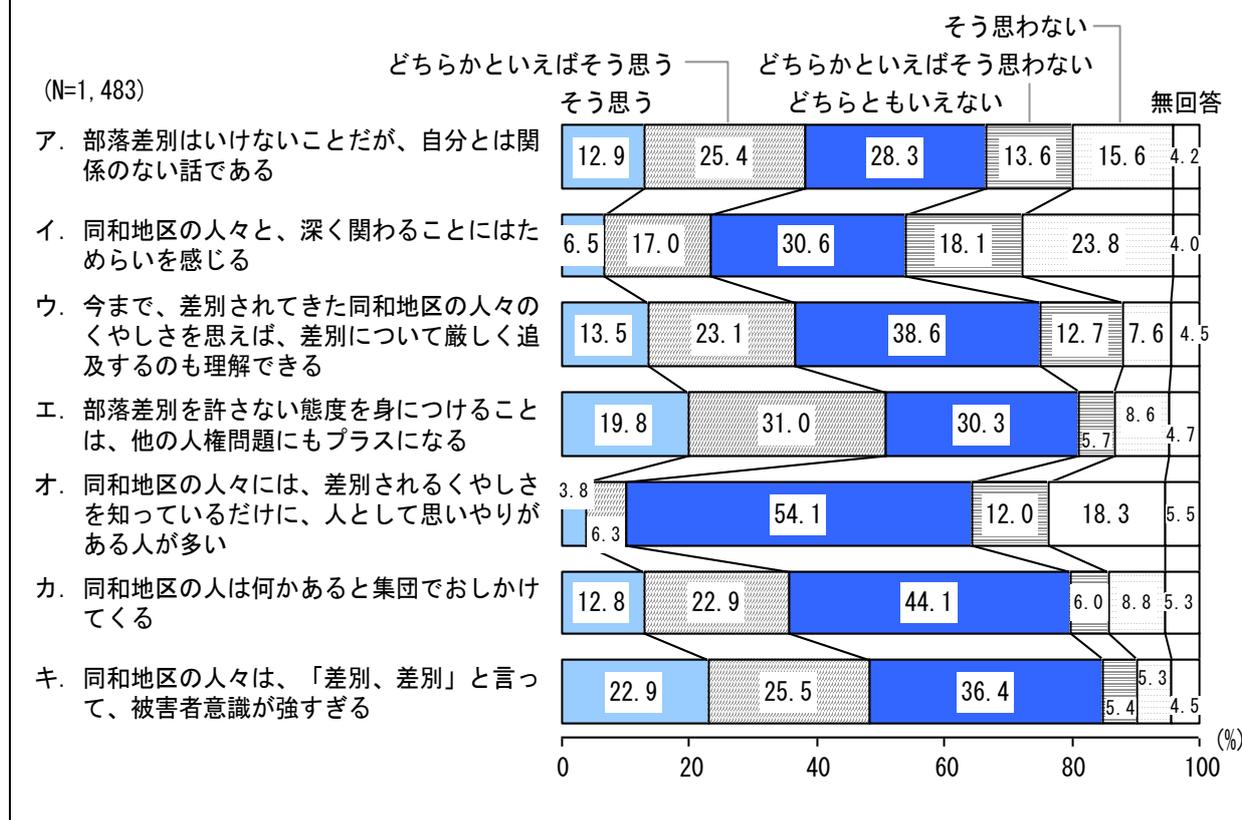


「ウ. 宅地建物取引についての部落差別」を区別でみると、各区で「わからない」が最も高くなっているが、“差別がある”が“差別はない”に比べ割合が高く、3割台を占めている。
(図 2-2-9)

(3) 同和問題についての考え方

問6 同和問題について、次のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。
(ア～キのそれぞれについてあてはまる番号1つに○)

【図 2-3 同和問題についての考え方】



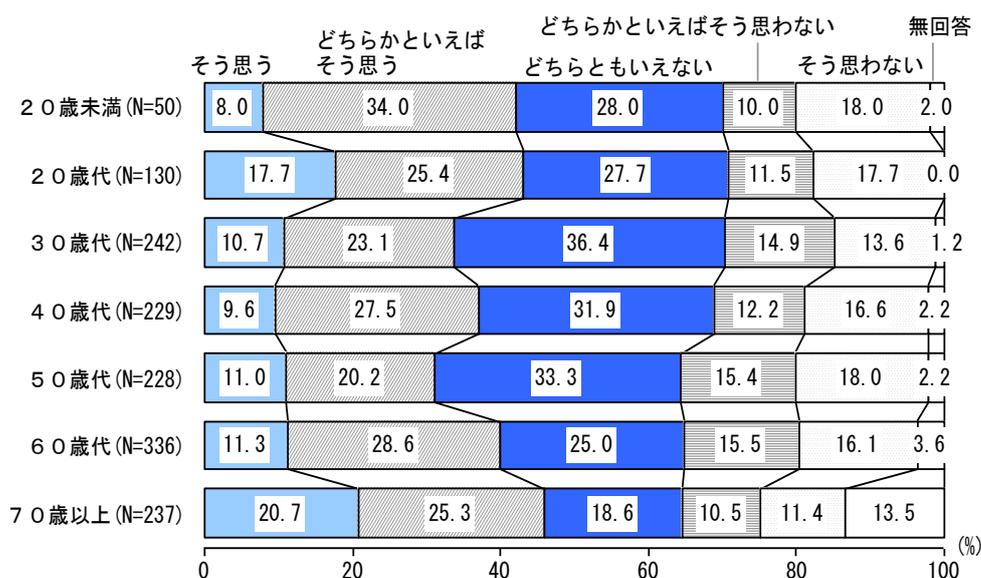
同和問題についての考え方として、“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高い項目は、「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」(50.8%)、「キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」(48.4%)、「ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」(38.3%)となっている。

一方、“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高い項目は、「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」(41.9%)となっている。

「ウ. 今まで、差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、差別について厳しく追及するのも理解できる」、「カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる」では、「どちらともいえない」が最も高く、“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。

「オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、人として思いやりがある人が多い」では、「どちらともいえない」が最も高く、“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっている。(図 2-3)

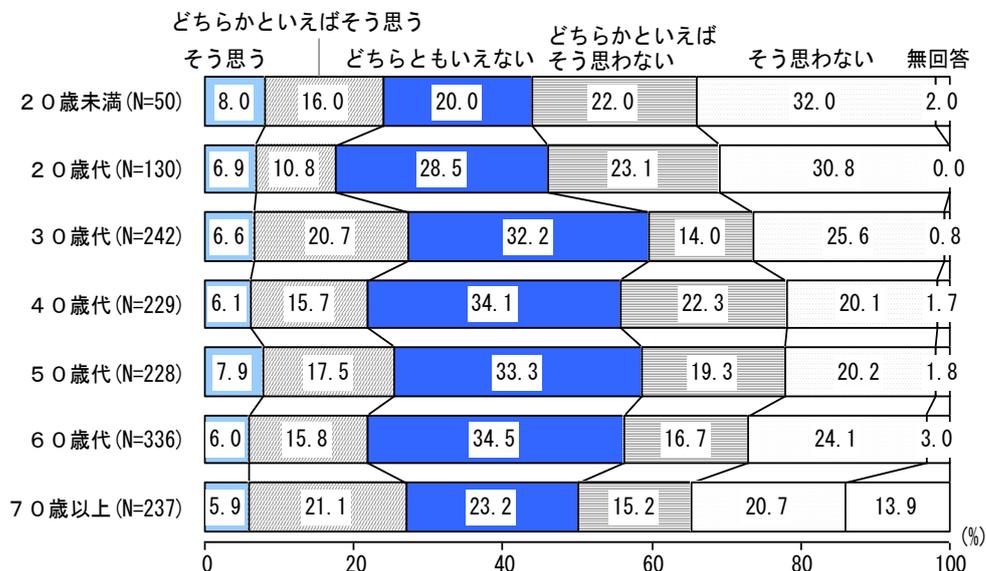
【図 2-3-1 年代別 ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である】



「ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」を年代別でみると、50歳代を除く各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。

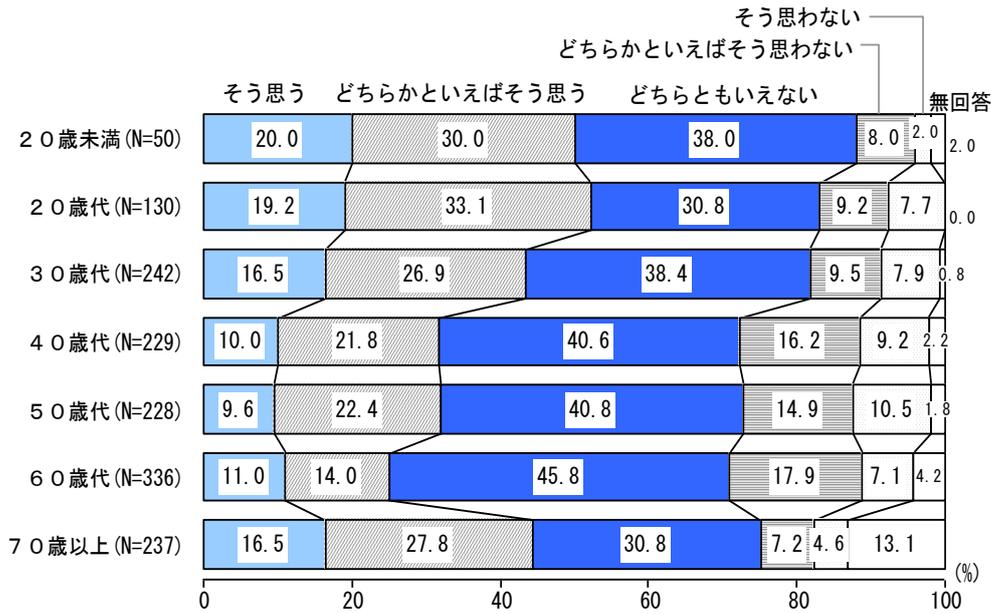
50歳代では“否定派”（33.4%）、「どちらともいえない」（33.3%）、「肯定派」（31.2%）であり差はない。（図 2-3-1）

【図 2-3-2 年代別 イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる】



「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」を年代別でみると、各年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっており、20歳代以下の年代では過半数を占めている。（図 2-3-2）

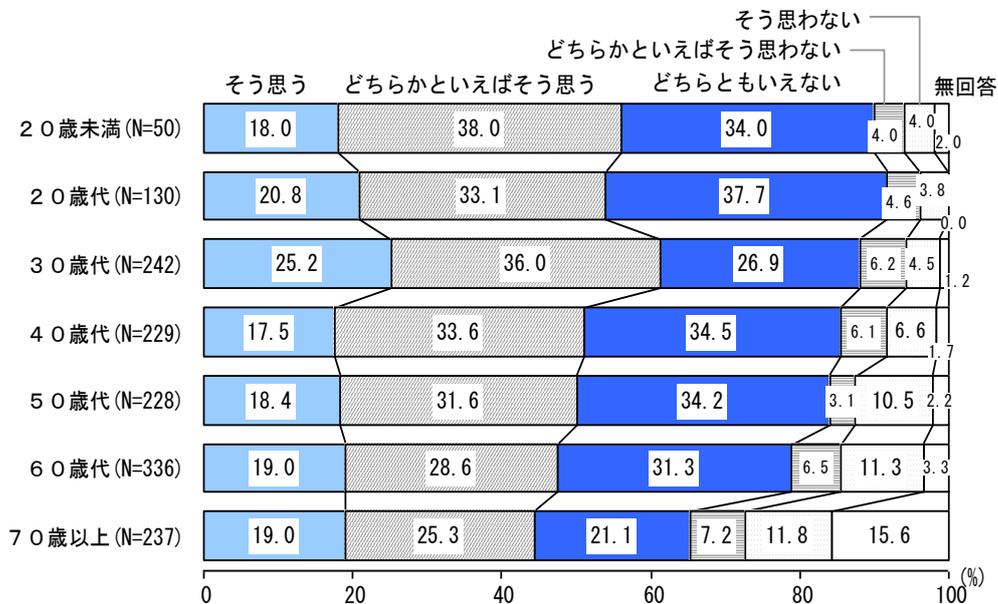
【図 2-3-3 年代別 ウ. 今まで、差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、差別について厳しく追及するのも理解できる】



「ウ. 今まで、差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、差別について厳しく追及するのも理解できる」を年代別でみると、60歳代を除く各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、20歳代以下の年代では5割台を占めている。

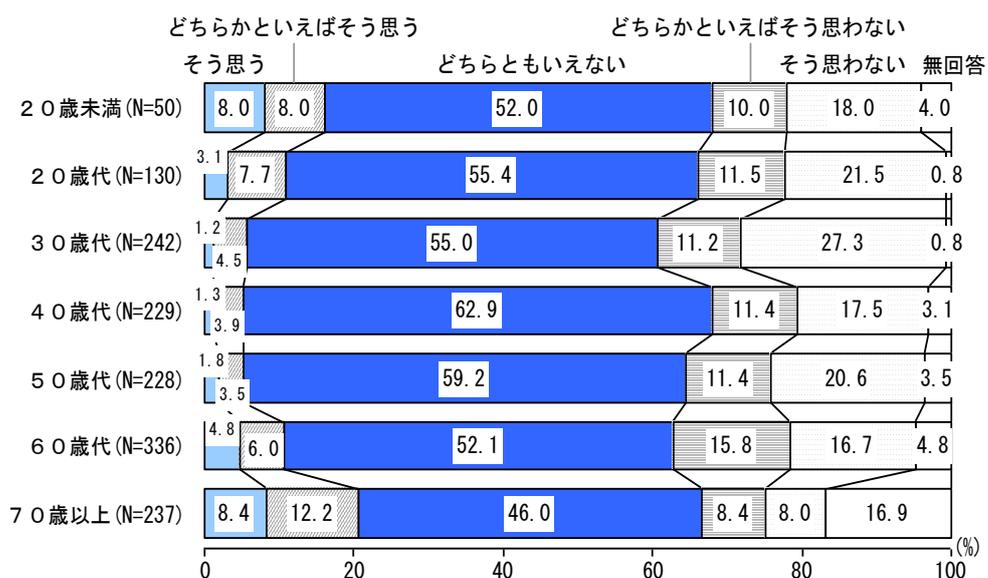
60歳代では、“肯定派”と“否定派”とも同率（25.0%）となっている。（図 2-3-3）

【図 2-3-4 年代別 エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる】



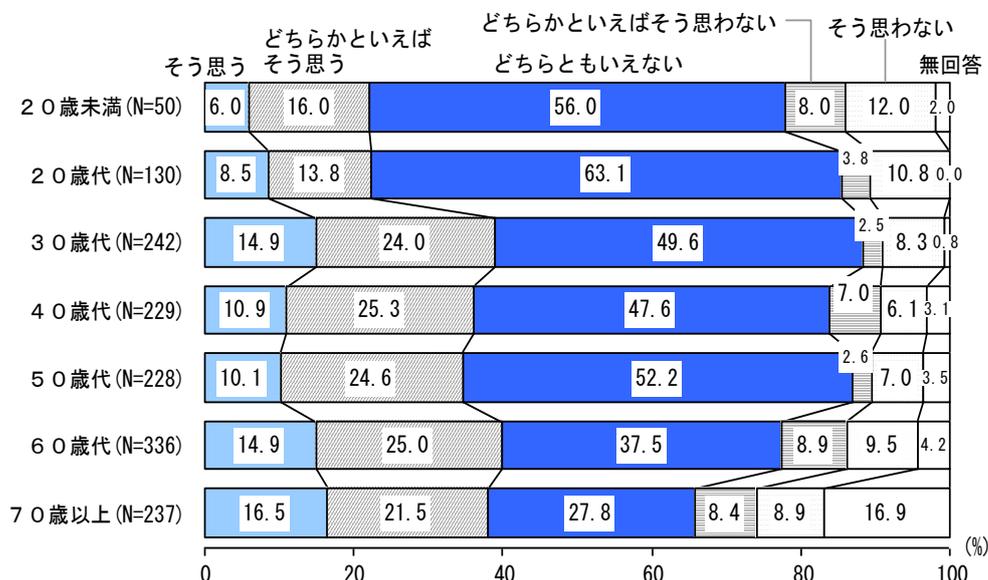
「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」を年代でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、50歳以下の年代では5割以上を占め、特に30歳代では61.2%と高くなっている。（図 2-3-4）

【図 2-3-5 年代別 オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、人として思いやりがある人が多い】



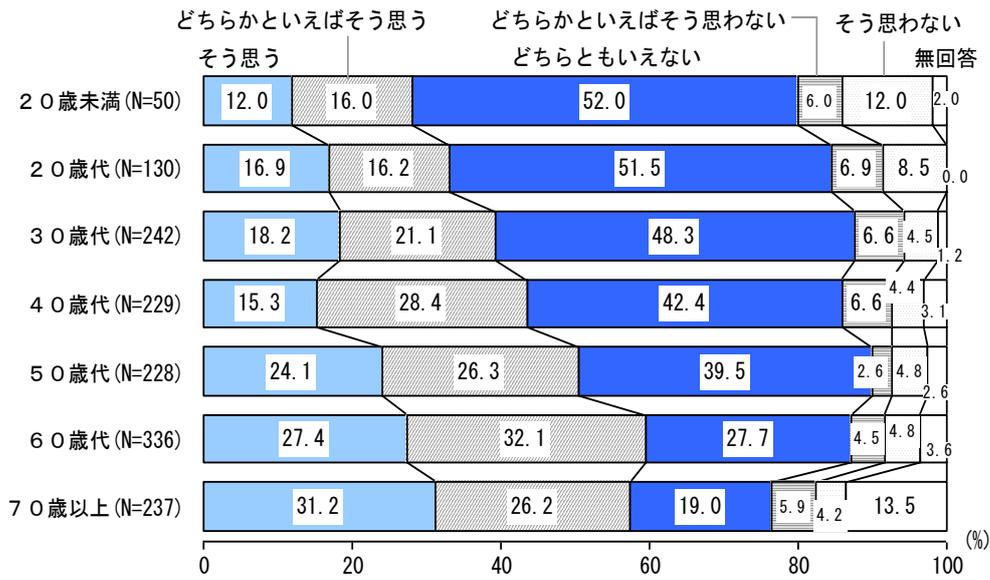
「オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、人として思いやりがある人が多い」を年代別でみると、各年代で「どちらともいえない」が最も高くなっている。60歳代以下の年代では“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高く、3割前後を占めている。逆に、70歳以上では“肯定派”が“否定派”に比べ高く、20.6%を占めている。（図 2-3-5）

【図 2-3-6 年代別 カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる】



「カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっているが、50歳代以下の年代では「どちらともいえない」が5割前後を占めている。（図 2-3-6）

【図 2-3-7 年代別 キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる】

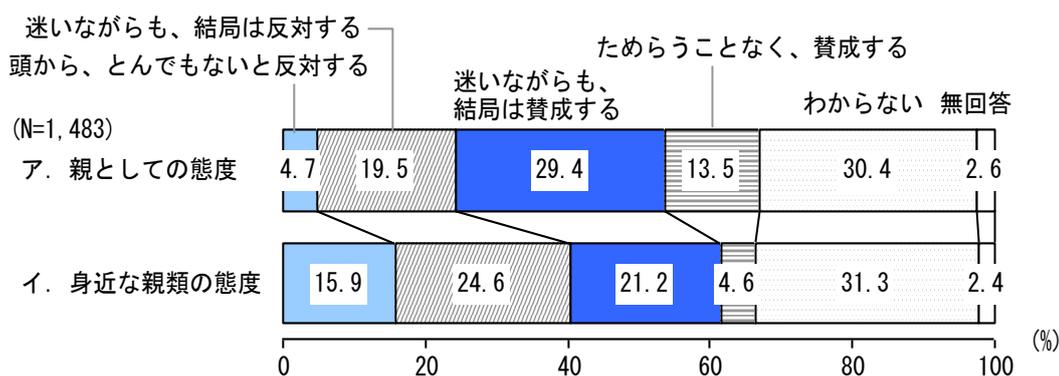


「キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、年代が上がるにつれて“肯定派”の割合が上昇し、50歳代以上の年代では過半数を占めている。（図 2-3-7）

(4) 同和地区の方との結婚について

問7 もし仮に、あなたのお子さん（お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください）が恋愛をし、結婚をしたいとっている相手が同和地区の人であった場合についてお聞きします。（それぞれについてあてはまる番号1つに○）

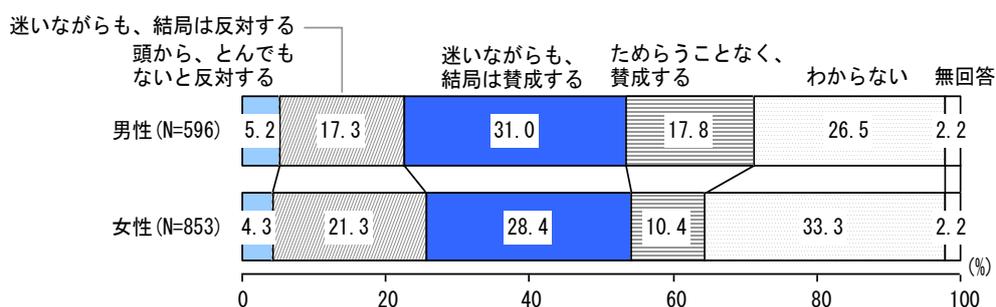
【図2-4 同和地区の方との結婚について】



同和地区の方との結婚について、「ア. 親としての態度」では“賛成派”（「迷いながらも、結局は賛成する」と「ためらうことなく、賛成する」を合わせた数）（42.9%）が“反対派”（「頭から、とんでもないと反対する」と「迷いながらも、結局は反対する」を合わせた数）（24.2%）と比べ18.7ポイント高くなっている。

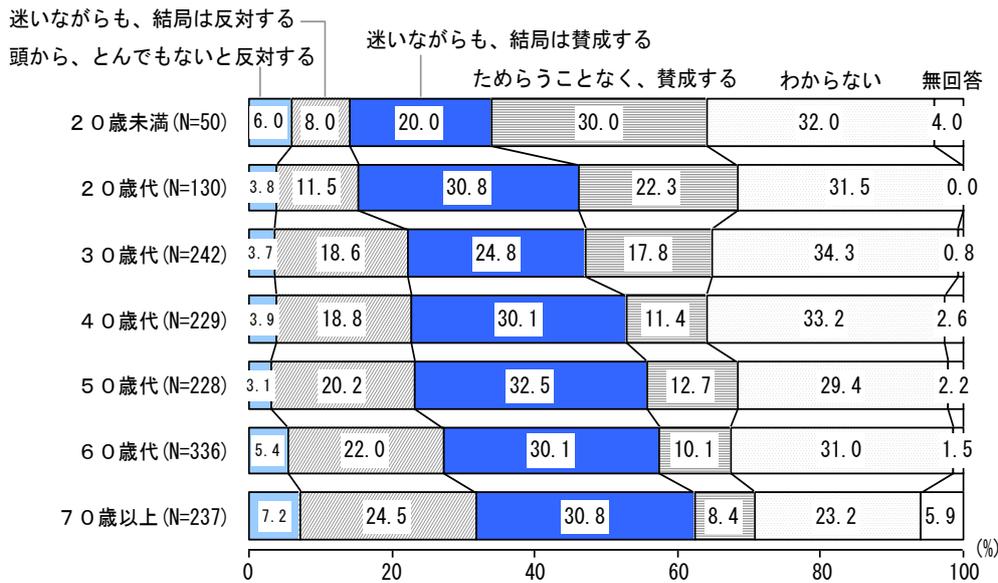
一方、「イ. 身近な親類の態度」では、“反対派”（40.5%）が“賛成派”（25.8%）と比べ14.7ポイント高くなっている。（図2-4）

【図2-4-1 性別 ア. 親としての態度】



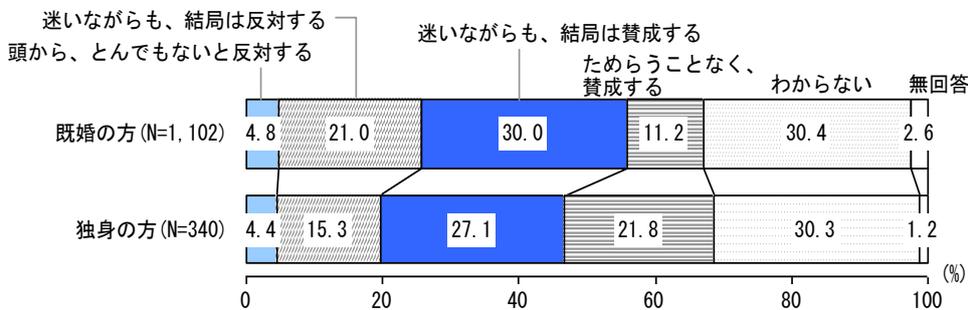
「ア. 親としての態度」を性別で見ると、男女とも“賛成派”が“反対派”に比べ割合が高く、男性（48.8%）が女性（38.8%）に比べ10.0ポイント高くなっている。（図2-4-1）

【図 2-4-2 年代別 ア. 親としての態度】



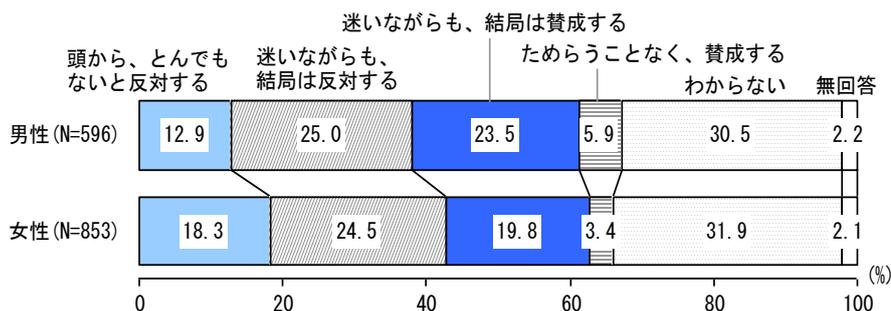
「ア. 親としての態度」を年代別で見ると、各年代で“賛成派”が“反対派”に比べ割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて“反対派”の割合が上昇している。20歳未満で“賛成派”が50.0%、20歳代で53.1%と過半数に達しているのは評価できるが、なお“反対派”が20歳未満で14.0%、20歳代で15.3%も存在していることは、留意されなければならない。(図 2-4-2)

【図 2-4-3 結婚の有無別 ア. 親としての態度】



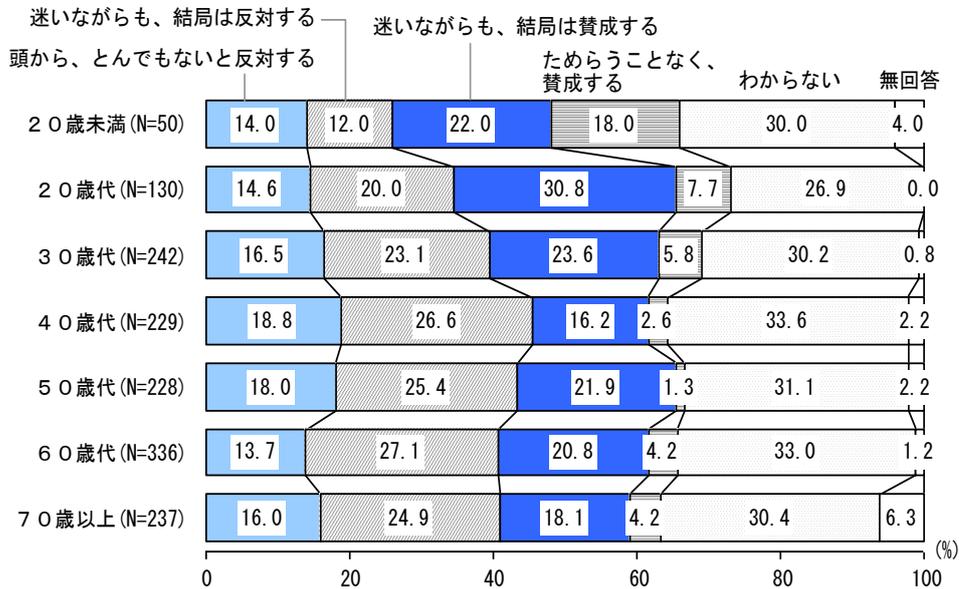
「ア. 親としての態度」を結婚の有無別で見ると、既婚・独身の方とも“賛成派”が“反対派”に比べ割合が高く、独身の方(48.9%)が既婚の方(41.2%)に比べ7.7ポイント高くなっている。(図 2-4-3)

【図 2-4-4 性別 イ. 身近な親族の態度】



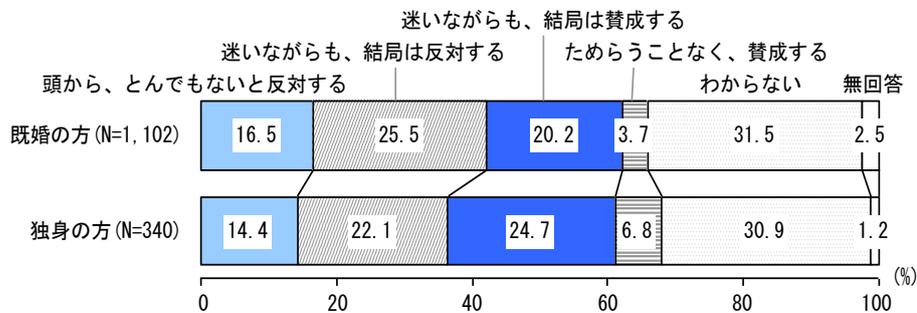
「イ. 身近な親族の態度」を性別でみると、男女とも“反対派”が“賛成派”に比べ割合が高く、女性（42.8%）が男性（37.9%）に比べ4.9ポイント高くなっている。（図2-4-4）

【図2-4-5 年代別 イ. 身近な親族の態度】



「イ. 身近な親族の態度」を年代別でみると、20歳代以下の年代では“賛成派”が“反対派”に比べ割合が高くなっているが、30歳代以上の年代は“反対派”の割合が高くなっている。（図2-4-5）

【図2-4-6 結婚の有無別 イ. 身近な親族の態度】

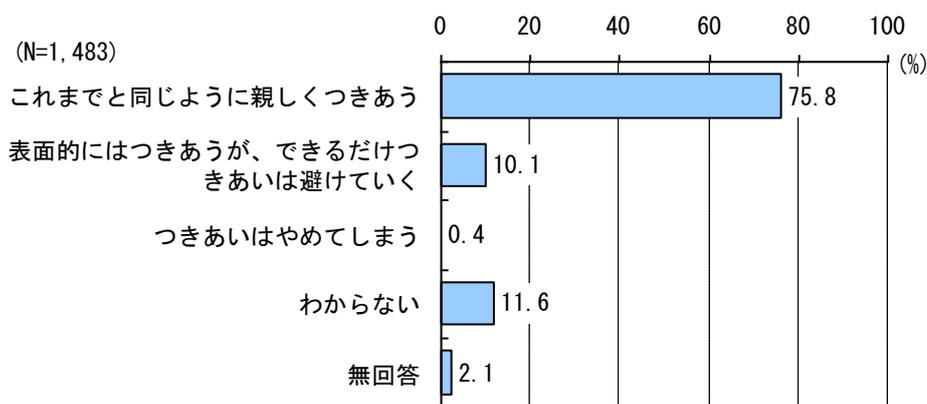


「イ. 身近な親族の態度」を結婚の有無別でみると、既婚・独身の方とも“反対派”が“賛成派”に比べ割合が高く、既婚の方（42.0%）が独身の方（36.5%）に比べ5.5ポイント高くなっている。（図2-4-6）

(5) 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合

問8 仮に、日ごろから親しくつきあっている人が、なにかのことで同和地区出身の人であることがわかった場合、あなたはどうしますか。(あてはまる番号1つに○)

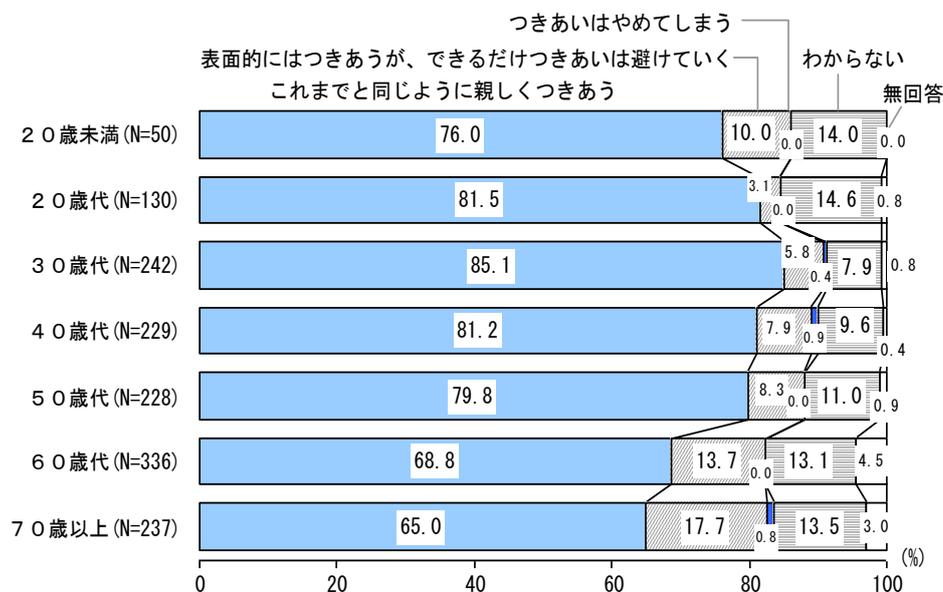
【図2-5 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合】



日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合については、「これまでと同じように親しくつきあう」(75.8%)が最も高くなっている。

また、「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」は10.1%、「つきあいはやめてしまう」は0.4%となっている。(図2-5)

【図2-5-1 年代別 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合】

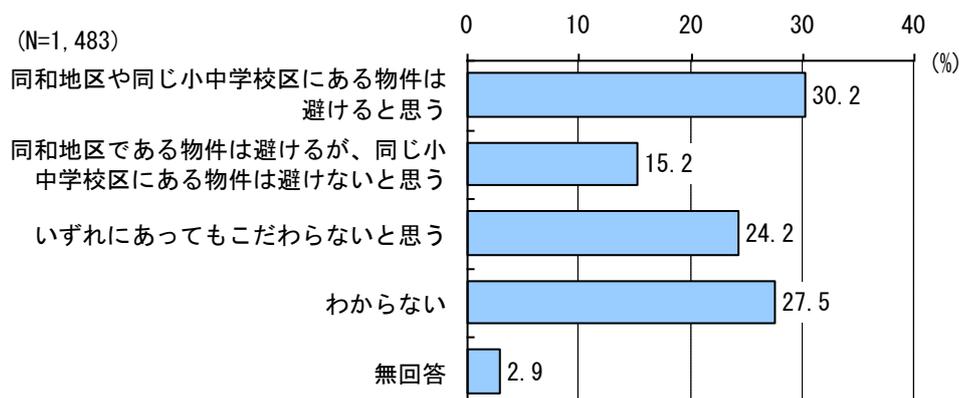


日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合を年代別でみると、各年代で「これまでと同じように親しくつきあう」の割合が高くなっているが、年代が上がるにつれて「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」の割合が上昇している。(図2-5-1)

(6) 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて

問9 もしあなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区や同和地区が小中学校区にある物件ならばどのようにすると思いますか。
(あてはまる番号1つに○)

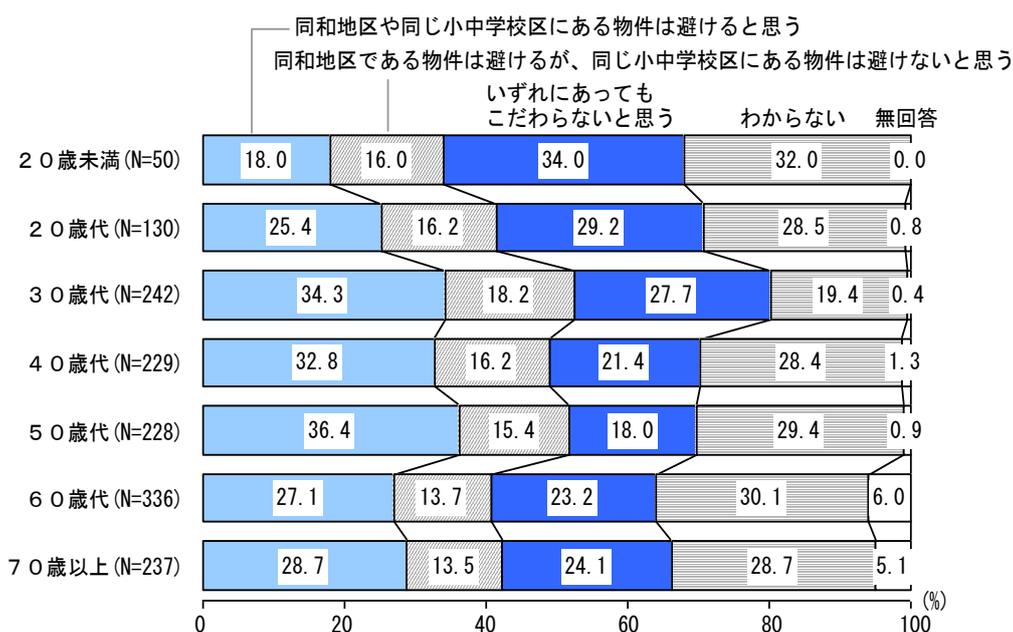
【図 2-6 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて】



同和地区内で住宅を購入、賃貸することについては、「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」が30.2%と最も高く、「同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けないと思う」が15.2%となっている。同和地区にある物件を避けると思う人々は、45.4%に達する。

一方、「いずれにあってもこだわらないと思う」が24.2%を占めている。(図 2-6)

【図 2-6-1 年代別 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて】



同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて年代別でみると、20歳代以下の年代では「いずれにあってもこだわらないと思う」が最も高くなっているが、30歳代以上の年代は「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」が最も高くなっている。

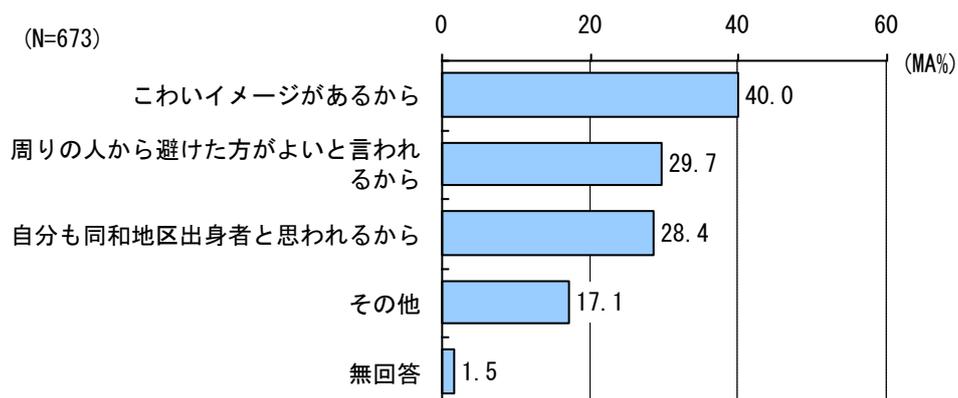
また、“同和地区の物件を避ける”（「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」と「同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区になる物件は避けたいと思う」を合わせた数）では、20歳未満が「いずれにあってもこだわらないと思う」が34.0%で最も低いのにに対し、20歳代以上の各年代では4割以上で、特に30～50歳代では5割前後を占め高率となっている。（図 2-6-1）

(7) 同和地区を避ける理由

問9-1 問9で「1. 同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」または「2. 同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けないと思う」と答えた方にお聞きします。あなたはなぜそのように思うのですか。

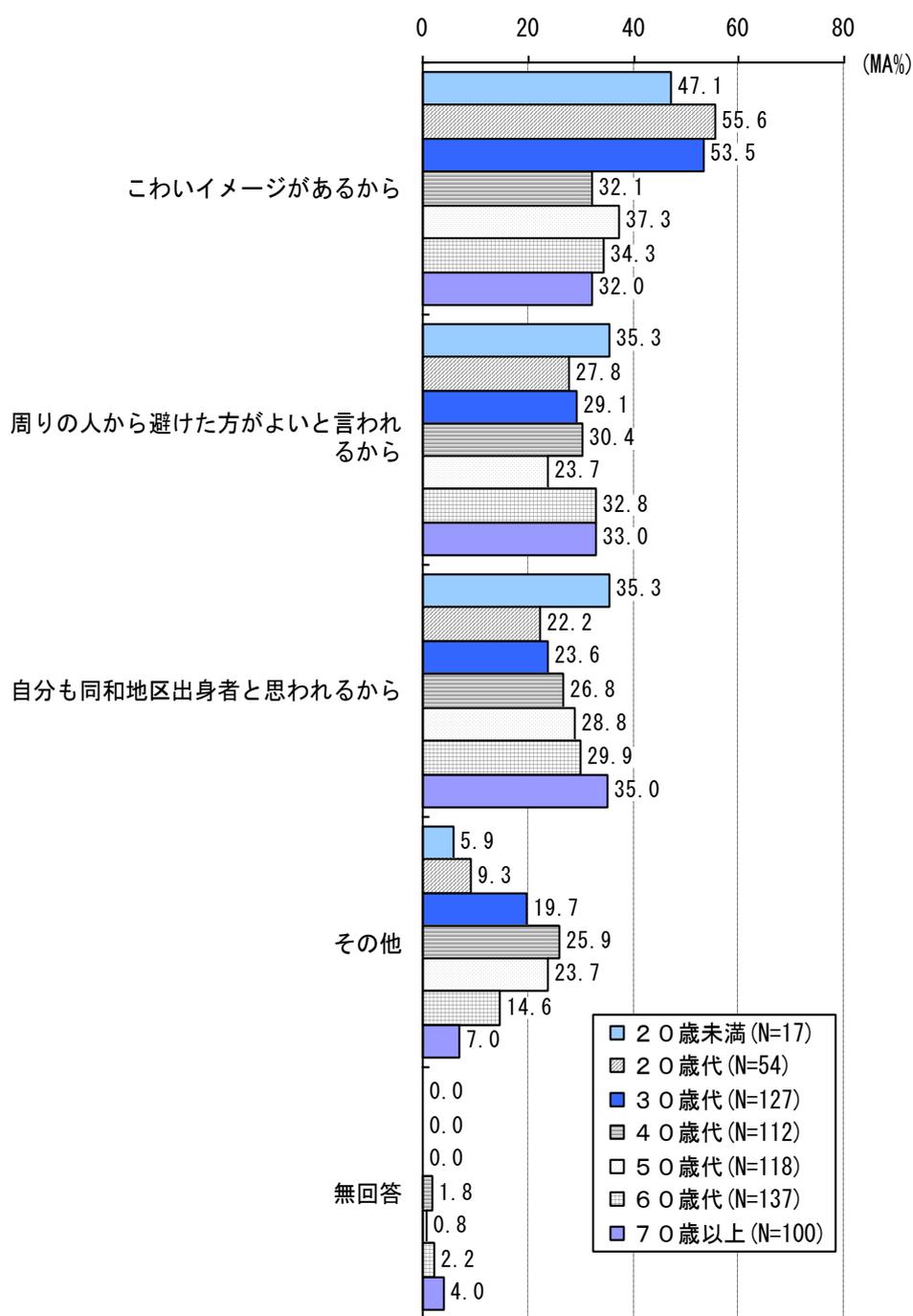
(あてはまる番号すべてに○)

【図 2-7 同和地区を避ける理由】



同和地区の物件を避ける人に、その理由をたずねたところ、「怖いイメージがあるから」(40.0%)が最も高く、次いで「周りの人から避けた方がよいと言われるから」(29.7%)と「自分も同和地区出身者と思われるから」(28.4%)は、ほぼ横ばいとなっている。(図 2-7)

【図 2-7-1 年代別 同和地区を避ける理由】



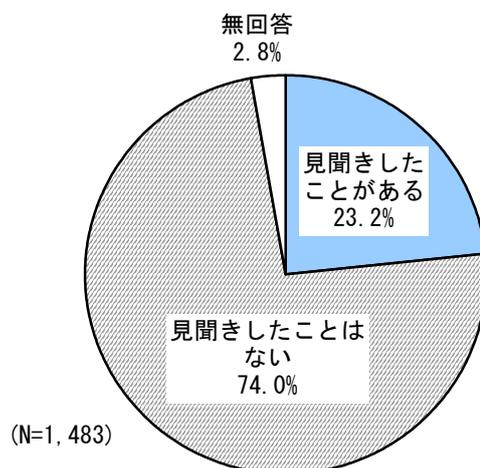
同和地区を避ける理由を年代別でみると、20歳代と30歳代では「こわいイメージがあるから」が5割台と高くなっている。

「自分も同和地区出身者と思われるから」では、20歳未満を除いて年代が上がるにつれて上昇している。（図 2-7-1）

(8) 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験

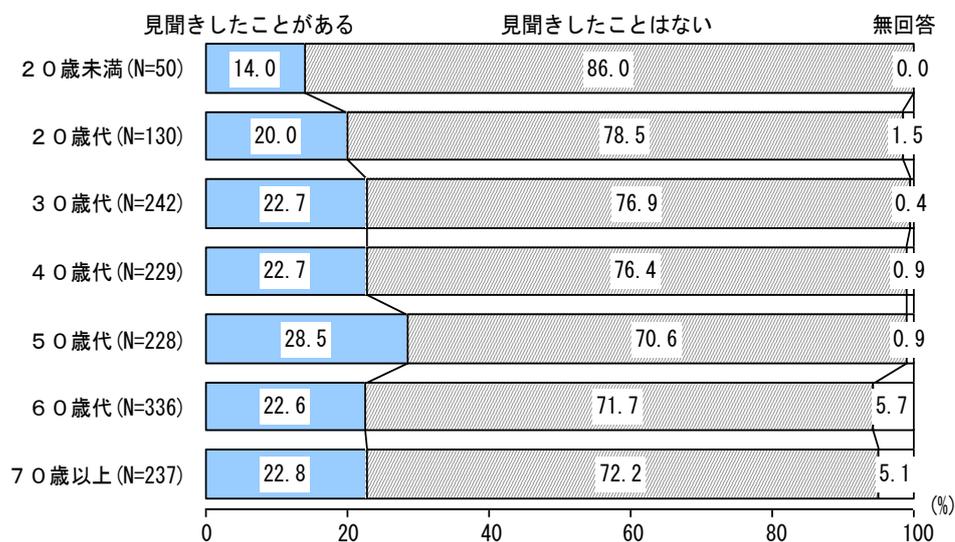
問10 あなたは、同和地区の人々に対する差別的な言動や落書きを見聞きしたことがありますか。

【図2-8 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験】



同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験について、「見聞きしたことはない」が74.0%、「見聞きしたことがある」が23.2%となっている。(図2-8)

【図2-8-1 年代別 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験】



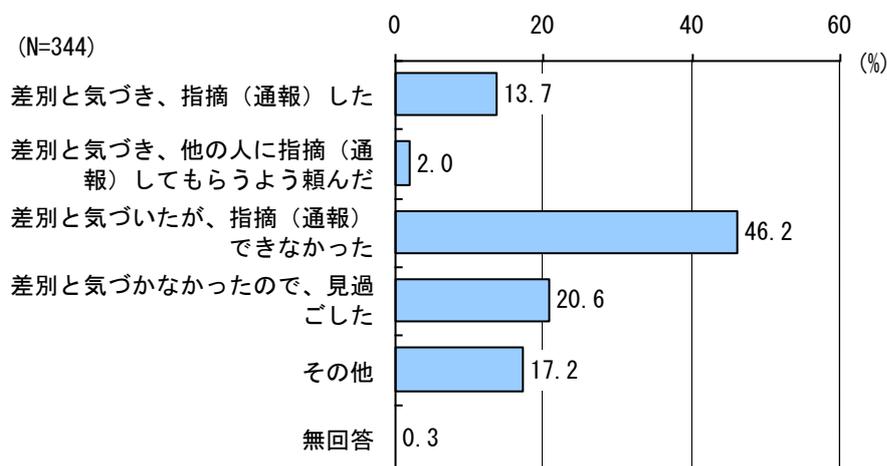
同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験を年代別でみると、各年代で「見聞きしたことはない」が7割以上を占めている。

「見聞きしたことがある」では、50歳代が28.5%と高くなっている。(図2-8-1)

(9) 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応

問 10-1 「1. 見聞きしたことがある」と答えた方にお聞きします。その時あなたは、どうされましたか。(あてはまる番号1つに○)

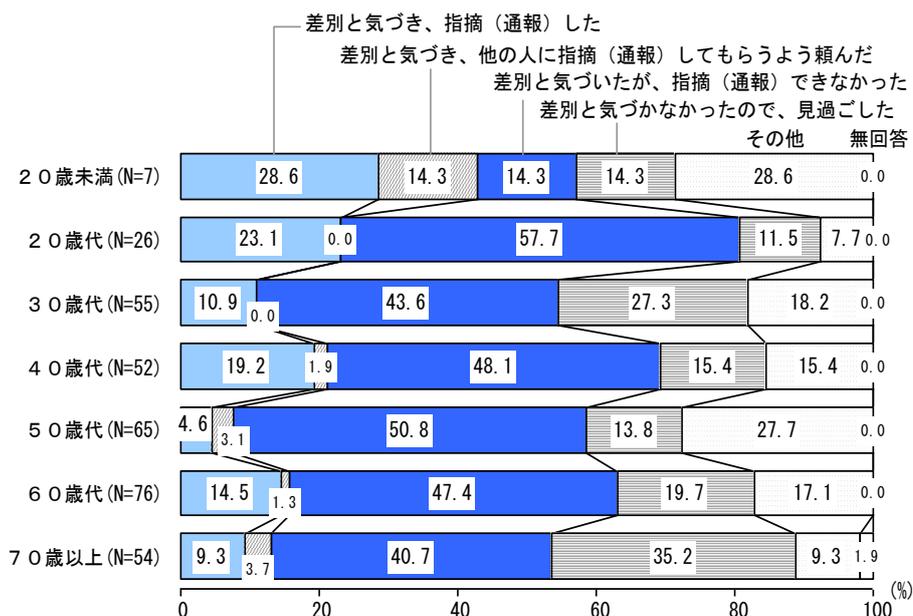
【図 2-9 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応】



同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きしたことがある人に、その時の対応についてたずねたところ、「差別と気づいたが、指摘（通報）できなかった」（46.2%）が最も高く、次いで「差別と気づかなかったので、見過ごした」（20.6%）となっている。

また、「その他」（17.2%）の内容には、「差別と気づいても見過ごした、気にしなかった、何もしなかった」などの回答が多くあがっている。（図 2-9）

【図 2-9-1 年代別 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応】

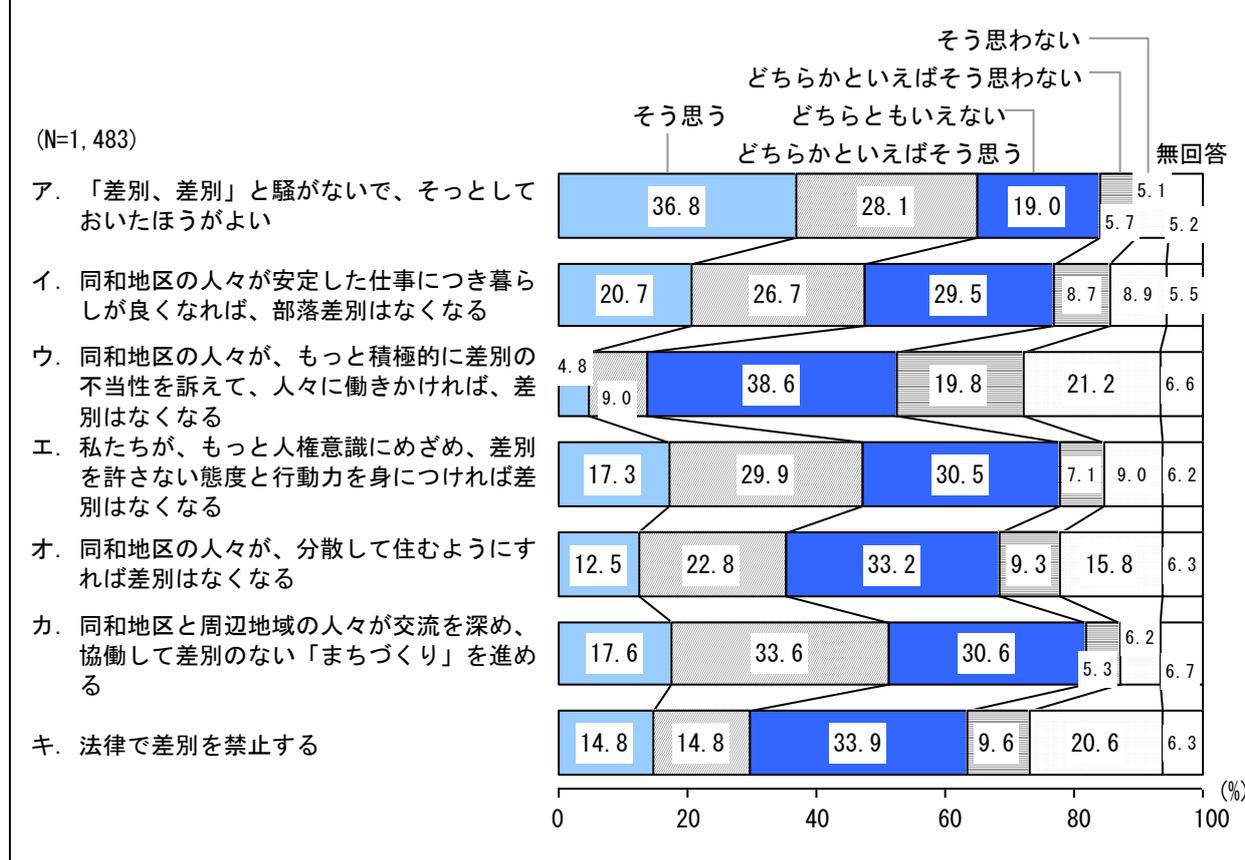


同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応を年代別でみると、20歳代以上の年代では「差別と気づいたが、指摘（通報）できなかった」が4割以上を占めている。（図 2-9-1）

(10) 部落差別をなくす方法に関する意見

問 11 部落差別をなくす方法について、次のような意見があります。あなたはごどう思いますか。（ア～キのそれぞれについてあてはまる番号1つに○）

【図 2-10 部落差別をなくす方法に関する意見】

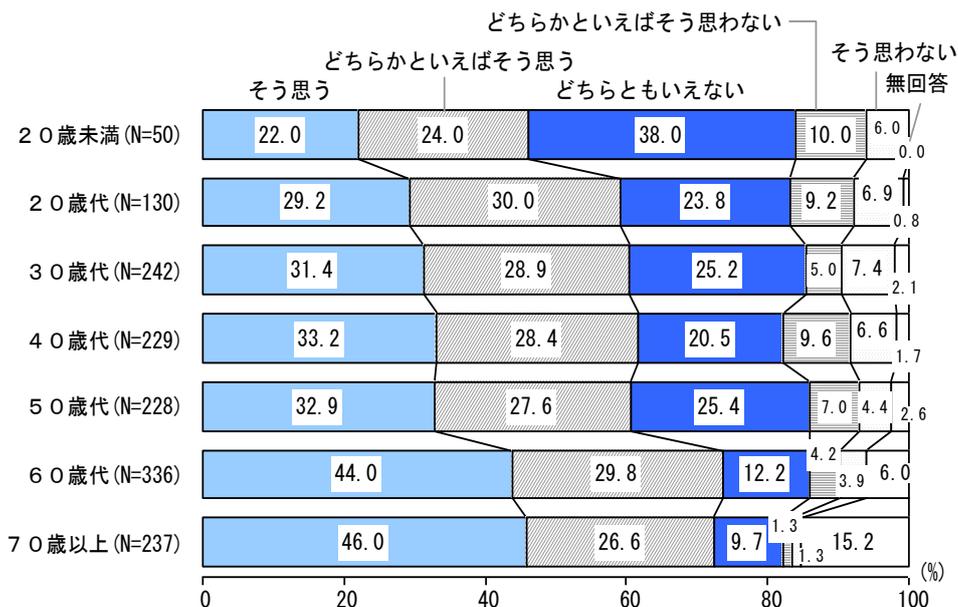


部落差別をなくす方法についてみると、「ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい」という、いわゆる“寝た子を起こすな”という考えの“肯定派”が64.9%にも達していることは、この考えがいかに根強いことを示している。他方で、「カ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める」(51.2%)、「イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、部落差別はなくなる」(47.4%)、「エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」(47.2%)という項目に関して“肯定派”の割合の高いことも注目される。ただし、「オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる」という部落分散論を支持する人々も35.3%に及んでいる。

“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高い項目は、「ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる」(41.0%)となっている。

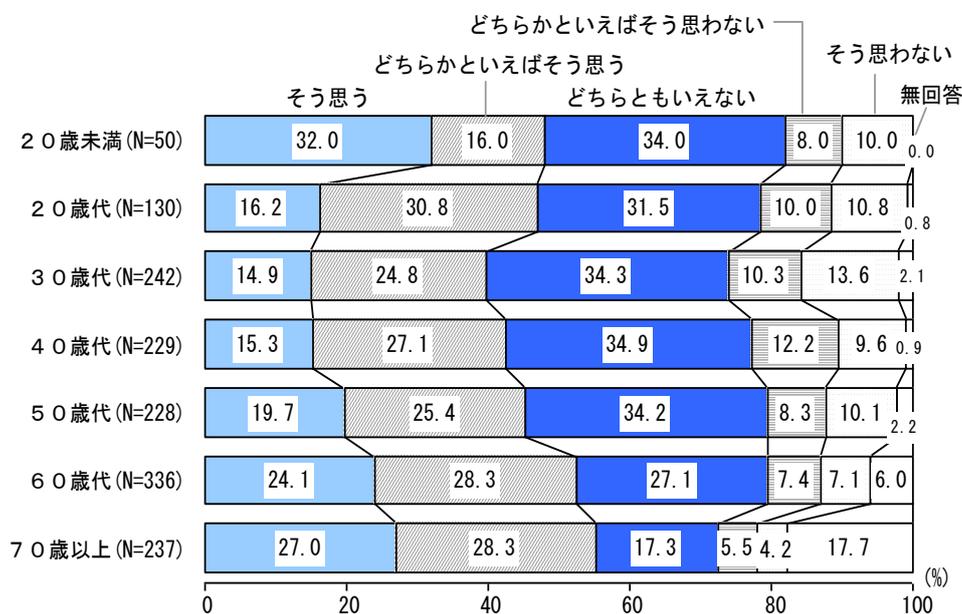
また、「キ. 法律で差別を禁止する」では、「どちらともいえない」(33.9%)が最も高く、“否定派”(30.2%)が“肯定派”(29.6%)に比べ割合がわずかに高い。(図 2-10)

【図 2-10-1 年代別 ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい】



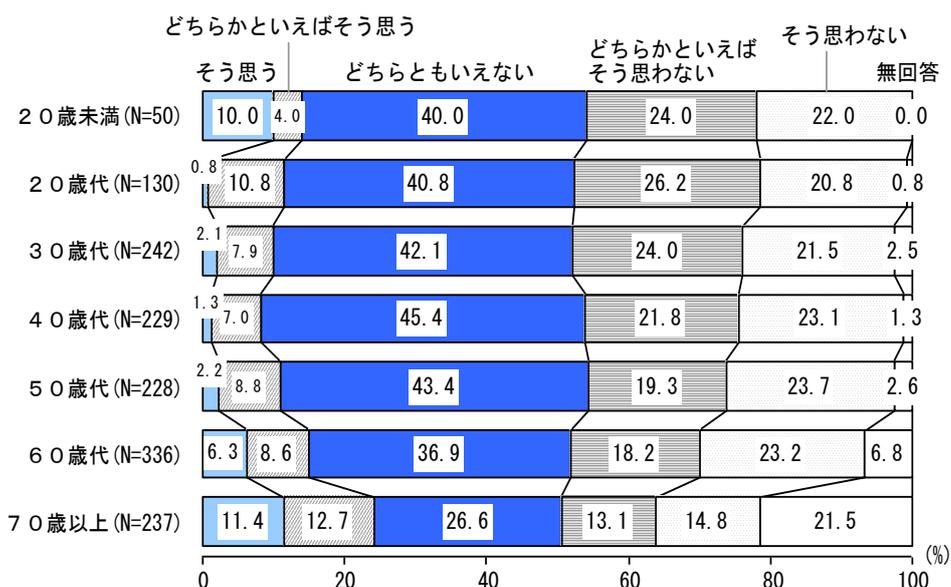
「ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい」を年代別でみると、いずれの世代も“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、年代が上がるにつれて“肯定派”の割合が上昇している。（図 2-10-1）

【図 2-10-2 年代別 イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、部落差別はなくなる】



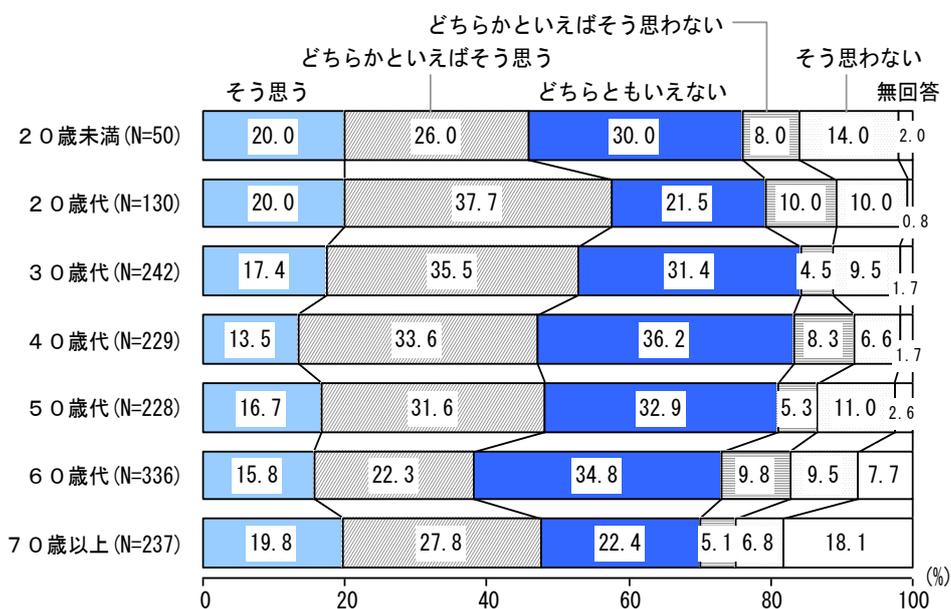
「イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、部落差別はなくなる」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっており、特に60歳代以上の年代では過半数を占めている。（図 2-10-2）

【図2-10-3 年代別 ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる】



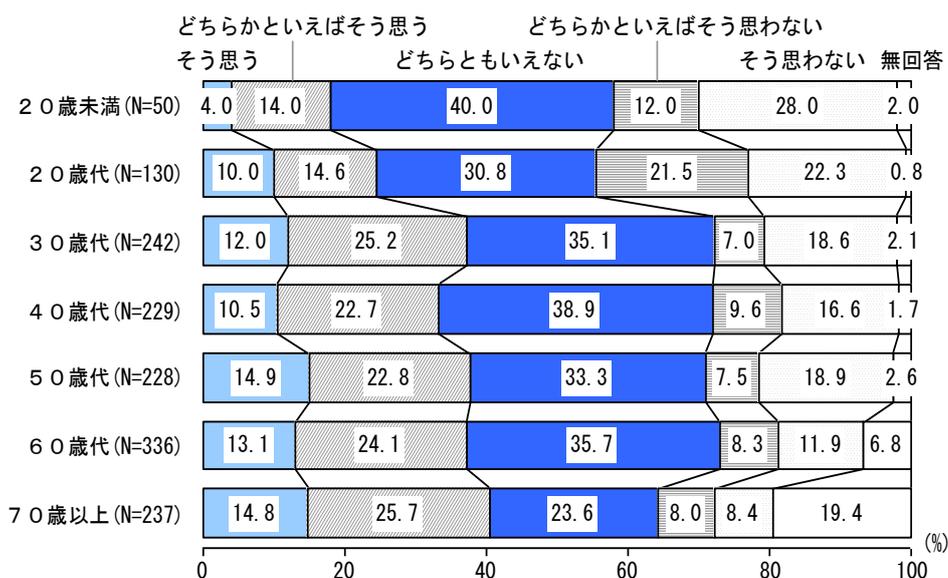
「ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる」を年代別で見ると、各年代で“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高く、60歳代以下の年代では4割台を占めているが、70歳以上では27.9%と低くなっている。(図2-10-3)

【図2-10-4 年代別 エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる】



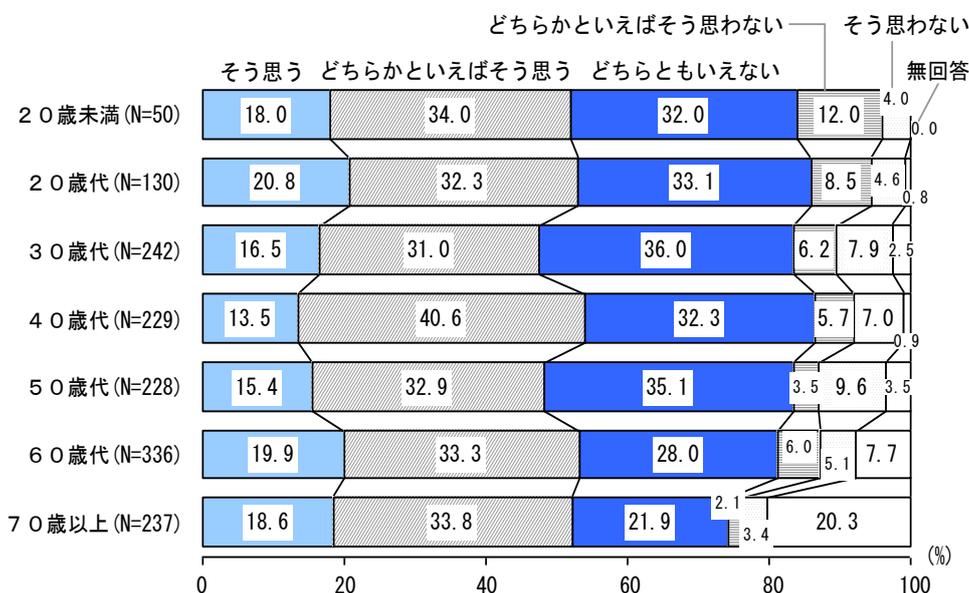
「エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」を年代別で見ると、各年代で“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高く、特に20歳代は57.7%と高くなっているが、60歳代(38.1%)では他の年代と比べ割合が低くなっている。(図2-10-4)

【図 2-10-5 年代別 オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる】



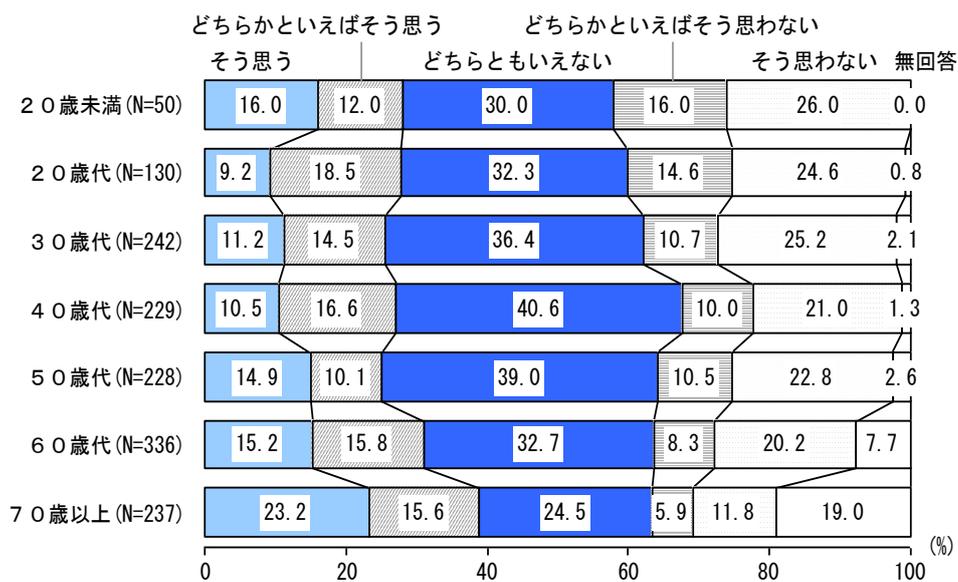
「オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる」を年代別でみると、20歳代以下の年代では“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高く、30歳代以上の年代では“肯定派”の方が高くなっている。（図 2-10-5）

【図 2-10-6 年代別 カ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める】



「カ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める」を年代別でみると、各年代で“肯定派”が半数近くを占めている。（図 2-10-6）

【図 2-10-7 年代別 キ. 法律で差別を禁止する】

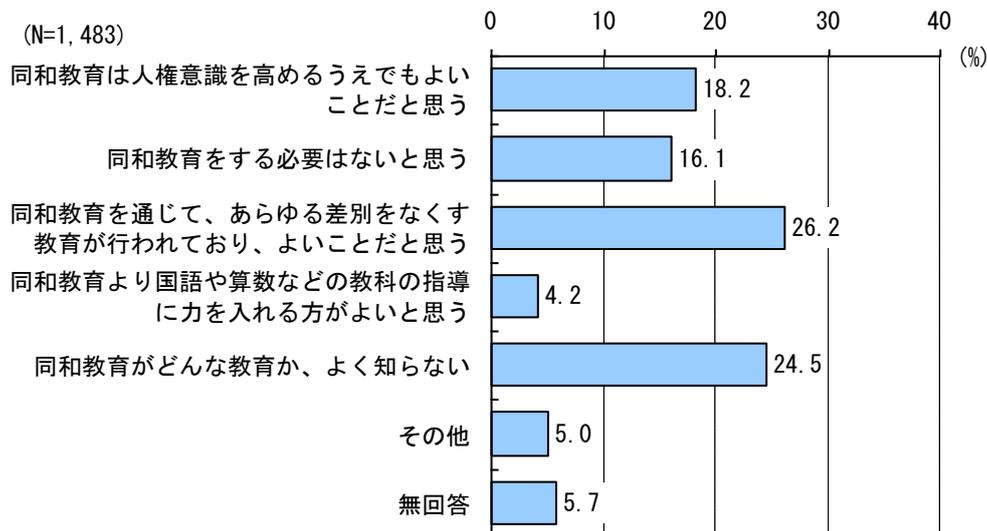


「キ. 法律で差別を禁止する」を年代別で見ると、50歳代以下の年代では“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、60歳以上の年代になると“肯定派”の割合が高くなっている。(図 2-10-7)

(11) 学校での「同和教育」について

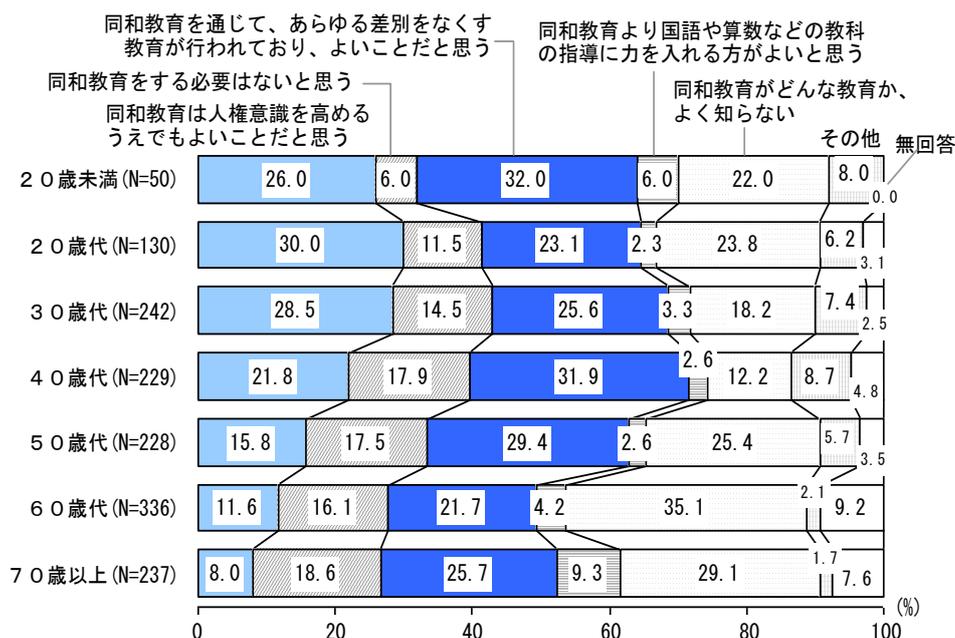
問 12 堺市では、学校で「同和教育」が行われていますが、あなたはどのようにお考えですか。（あてはまる番号1つに○）

【図 2-11 学校での「同和教育」について】



学校での「同和教育」に対する考え方として、「同和教育を通じて、あらゆる差別をなくす教育が行われており、よいことだと思う」が26.2%と最も高い。「同和教育は人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」は、18.2%あり、同和教育を評価する意見が、44.4%になる。「同和教育をする必要はないと思う」（16.1%）という意見を大きく上回っている。ただし、「同和教育がどんな教育か、よく知らない」が、24.5%もあることに注意を払う必要がある。「同和教育より国語や算数などの教科の指導に力を入れる方がよいと思う」は、4.2%であった。（図 2-11）

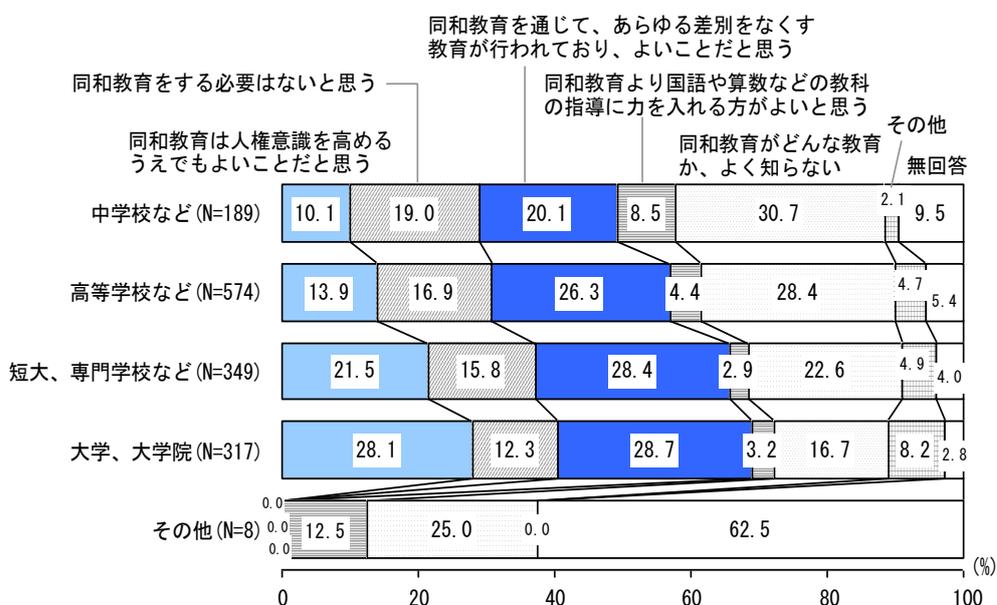
【図 2-11-1 年代別 学校での「同和教育」について】



学校での「同和教育」について年代別でみると、年代が上がるにつれて「同和教育は人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」の割合が低下しており、「同和教育をする必要はないと思う」の割合が上昇している。

また、60歳代と70歳以上では「同和教育がどんな教育か、よく知らない」が高くなっている。
 (図 2-11-1)

【図 2-11-2 最終学歴別 学校での「同和教育」について】



学校での「同和教育」について最終学歴別でみると、高学歴になるにつれて「同和教育は人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」と「同和教育を通じて、あらゆる差別をなくす教育が行われており、よいことだと思う」の割合が上昇しており、「同和教育をする必要はないと思う」と「同和教育がどんな教育か、よく知らない」の割合が低下している。
 (図 2-11-2)